

## 日程表

10月7日(日)

( ) の中は会場を示す。

9:00	9:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:45	18:00	19:00	21:00
受付・研究発表の打ち合わせ	研究発表 I A(A301) B(A302) C(A303) D(A304) E(A 地下 100) F(A100) G(J208) H(A200)	昼 食	共同企画 I (A100) 共同企画 II (J スタジオ) 共同企画 III (J 分奏室) プロジェクト研究 I (A200)	挨拶 基調講演 シンポジウム  ( 100 周年記念ホール )			総会		懇親会 (食堂)
	11:30~13:30 院生フォーラム (A200 の前)								

10月8日(月)

8:30	9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45
受付・研究発表の打ち合わせ	研究発表 II I(A301) J(A302) K(A303) L(A304) M(A 地下 100) N(A100) O(J208) P(A200)	昼 食	共同企画 IV (A100) 共同企画 V (J スタジオ) 共同企画 VI (J 分奏室) プロジェクト研究 II (A200)	共同企画 VII (A100) 共同企画 VIII (A200) 共同企画 IX (J スタジオ) 共同企画 X (J 分奏室)		
	10:30~12:30 ピアノ公開レッスン (100 周年記念ホール)		13:30~16:15 (100 周年記念ホール) 吹奏楽レクチャー・コンサート			

\* 研究発表の開始時間は、  
7日(日)は9:30  
8日(月)は9:00  
です。

\* 研究発表の打ち合わせは、  
7日(日)は9:00から  
8日(月)は8:30から  
行います。  
研究発表者と司会者は  
各会場に集合して下さい。

\* ガムランワークショップは  
定員30名です。8日当日に  
A館2階の受付にて整理券  
を配布します。詳細は4頁  
をご覧下さい。

## 平成24年度総会

日時：10月7日(日) 18:00~19:00

会場：100周年記念ホール

- 議題：
1. 開会の辞
  2. 会長挨拶
  3. 議長選出
  4. 議事
    - 1) 会務報告
    - 2) 平成23年度会計報告・監査報告
    - 3) 平成24年度補正予算
    - 4) 平成25年度事業計画および予算
    - 5) 第44回大会開催地について
    - 6) 第45回大会開催候補地について
    - 7) その他
  5. 閉会の辞

## 研究発表者へのご案内

1. 1日目（10月7日・日曜日）研究発表の方は当日午前9時に、2日目（10月8日・月曜日）研究発表の方は当日午前8時30分に、各発表会場においてください。司会者との打合せと使用機器の確認を行います。コンピュータは発表者の責任でご持参のうえ動作確認をおこなってください。なお、司会者との打合せ前に受付をおすませください。
2. 共同企画の進行は代表者に一任致します。開始と終了時刻の厳守をお願い致します。
3. 発表資料は発表者各自が当日会場にご持参ください。会場での増刷は出来ませんので十分な数をご用意ください。大体の目安として、例年70部ほどのご用意をお願いしております。なお、打合せの際に資料1部を司会者にお渡しください。
4. 発表（共同企画を除く）の持ち時間は25分（15分予鈴、20分終鈴、5分質疑応答）です。時間厳守をお願い致します。

## 司会者へのご案内

1. 研究発表開始30分前に、各会場にて発表者との打合せをしてくださるようお願い致します。なお、打合せ前に受付をおすませください。
2. 打合せの際に、発表者の出欠確認をお願い致します。なお、発表者全員が打合せ時間内に機器の接続・動作確認をすませることができるよう、ご配慮をお願い致します。
3. 発表者からお受け取りになった資料1部は、記録用として所定の袋にて保存をお願い致します。
4. 時間の厳守をお願い致します（発表20分、質疑5分、移動時間5分）。なお、タイムキーパーは司会者をお願い致します。
5. 資料は会場スタッフが配布致します。
6. その他詳細につきましては、当日ご案内いたします。

## ご参加の皆様へ

1. 会場内にロッカーやクロークはございませんので、お手荷物は最寄り駅のコインロッカー等をご利用ください。
2. 売店と学生食堂が営業しておりますが、混雑が予想されます（営業時間は売店が8:30～17:00、食堂が11:00～14:00です）。なお、当日会場にて、周辺飲食店のご案内を配付いたします。
3. 8日（月）は祝日ですが、東京音大では授業が行なわれています。ご理解とご配慮のほど、よろしくお願い致します。

## 大会実行委員会企画

基調講演&シンポジウム (100周年記念ホール) 7日 (日) 15:15~17:45

挨拶

日本音楽教育学会会長 加藤 富美子  
東京音楽大学学長 野島 稔  
第43回大会実行委員長 下道 郁子

基調講演

「オフィシャル」と「アンオフィシャル」とのはざままで……………(1)  
—近代日本の音楽文化と音楽教育の死角—

東京大学 渡 辺 裕

シンポジウム

音楽教育と音楽文化の〈100年〉、そして〈これから〉……………(1)

司会： 東京音楽大学 下道 郁子  
シンポジスト： 東京大学 渡辺 裕  
東京芸術大学 佐野 靖  
東京音楽大学・日本学術振興会 周東 美材

ピアノ公開レッスン (100周年記念ホール) 8日 (月) 10:30~12:30

戦後日本の専門レベルでのピアノ教育を振り返る……………(2)  
—公開レッスンを通して、今日に通じるその問題点と解決法を探る—

東京音楽大学 岡田 敦子

吹奏楽レクチャー・コンサート (100周年記念ホール) 8日 (月) 13:30~16:15

トランペットを中心とした吹奏楽器の研究……………(3)

東京音楽大学 津 堅 直 弘

ガムランワークショップ (民族音楽研究所) 8日 (月) 13:30~15:00 (1回目) 15:15~16:45 (2回目)

インドネシア・ジャワのガムラン音楽……………(4)  
—東洋のアンサンブルの楽しみ—

東京音楽大学附属民族音楽研究所 木村 佳代  
東京音楽大学附属民族音楽研究所 樋口 文子

## 常任理事会企画

プロジェクト研究Ⅰ (A200) 7日 (日) 13:30~15:00

音楽教育研究におけるルールとは(2)……………(5)  
—著作権を中心とした学習会—

講演者： 首都大学東京 山 神 清 和  
企画者・報告者： 第2次倫理ワーキンググループ  
座長 名古屋芸術大学 山 本 文 茂  
聖心女子大学 今 川 恭 子  
広島大学 権 藤 敦 子  
首都大学東京 西 島 央

プロジェクト研究Ⅱ (A200) 8日 (月) 13:30~15:00

音楽教育学における「記録」……………(6)

パネリスト： 作曲家・お茶の水女子大学 近 藤 譲  
立命館大学 笹 野 恵 理 子  
弘前大学 石 出 和 也  
企画・司会： 北海道教育大学 寺 田 貴 雄



研究発表C (A303) 7日(日) 9:30～12:30

司会 大沼覚子(東京芸術大学)・尾見敦子(川村学園女子大学)

- C-1 乳幼児の音声表現のリズム……………(19)  
—延音に着目した分析に基づく考察—  
甲南女子大学 坂井 康子・京都女子大学 岡林 典子
- 2 音楽聴取時における幼児の脳内活動について……………(20)  
東京福祉大学 岡村 弘・日本保健医療大学 関島 英子
- 3 糸を用いた音遊びの可能性……………(21)  
—音を探求する幼児の動きの分析を通して—  
聖心女子大学 今川 恭子・東京芸術大学 長谷川 慎  
駒沢女子大学 丸山 慎
- 4 音を聴く活動における幼児の言語表現……………(22)  
—他者との関係性に着目して—  
共立女子大学 村上 康子・静岡大学 石川 眞佐江
- 5 幼児の並行遊び場面における歌の機能……………(23)  
—子ども同士のかかわりの生成に着目して—  
静岡大学 石川 眞佐江
- 6 表現(音楽)に対する保育者の意識……………(24)  
—保育者と養成校の学生による保育観・音楽観の比較—  
東京福祉大学 田崎 教子

研究発表D (A304) 7日(日) 9:30～12:30

司会 杉江淑子(滋賀大学)・山内雅子(渋谷区立渋谷本町学園小学校)

- D-1 小学校歌唱指導における頭声発声の推移……………(25)  
—「裏声」に着目して戦後から現在まで(Ⅱ)—  
釧路専門学校 高嶋 道夫
- 2 合唱活動における変声期男子のパート分けに関する研究(2)……………(26)  
—Cambiata Concept が提唱した声の分類の検証—  
山口大学 高橋 雅子
- 3 児童の歌唱における内的フィードバックに関する縦断的研究(2)……………(27)  
—小学4年生から6年生の経年的変化の分析を通して—  
宮城教育大学 小畑 千尋
- 4 小学校音楽科授業におけるピアノアンサンブルの指導法研究……………(28)  
—グランドピアノを用いた実践の経過報告—  
東京学芸大学大学院生・豊島区立朋有小学校 吉田 めぐ
- 5 他者との「共有」による音楽鑑賞の熟達化……………(29)  
—小学校高学年児童における調査を中心に—  
鳥取大学附属小学校 仙田 真帆・岡山大学 小川 容子
- 6 小学校音楽科において、すべての児童が意欲的に取り組むことのできる授業提案……………(30)  
宮崎大学大学院生 渡山 志織

研究発表E (A 地下100) 7日(日) 9:30~12:30

司会 永岡都(昭和女子大学)・中嶋俊夫(横浜国立大学)

- E-1 <音楽家の耳> トレーニングと対話型グループレッスンの保育者養成共同開発プログラム (31)  
—「音楽する保育者」を育てるためのピアノ・グループレッスンの実践研究—  
青森明の星短期大学 泉谷千晶・エリザベト音楽大学 田中晴子  
エリザベト音楽大学 岡田陽子
- 2 音楽授業における若手教師の学習過程の検討…………… (32)  
—「省察」に焦点を当てて—  
東京藝術大学大学院生 市川 恵
- 3 音楽科における即興の指導カリキュラムに関する研究…………… (33)  
—米国における指導実践の調査をふまえて—  
東京学芸大学連合大学院学生(横浜国立大学配属) 田中 路
- 4 教科の連携を通して深める音楽学習の試み…………… (34)  
—音楽と理科による「見る眼・感じる眼」に着目した授業実践—  
岐阜聖徳学園大学 加藤晴子・岡山大学大学院 加藤内藏進
- 5 総合表現活動によって培われる多様な力…………… (35)  
—「協働」と「省察」に着目して—  
上越教育大学 時得紀子・上越教育大学附属中学校 遠藤好子
- 6 音楽劇実践における総合芸術性の所在…………… (36)  
—教師の意識・認識と指導内容の実態調査を通して—  
東京学芸大学大学院生 遠藤 香

研究発表F (A100) 7日(日) 9:30~12:30

司会 深見友紀子(京都女子大学)・北山敦康(静岡大学)

- F-1 ピアノ初心者の自己調整学習…………… (37)  
—自己評価レポートの分析を通して—  
岡山大学大学院生 所司都八紀・岡山大学 小川容子
- 2 導入期におけるホルン指導法…………… (38)  
—基礎練習の実践提案とその検証—  
ホルン奏者 松浦光男
- 3 楽譜から音高を把握するための音楽的基礎能力についての研究(2)…………… (39)  
—階名唱指導における盲点—  
ピアノ・ソルフェージュ講師 吉田直子
- 4 デジタル機器を活用した授業実践…………… (40)  
—音楽科教育を時代の合ったものにするために—  
横浜市立川井小学校 鈴木正樹
- 5 歌唱授業における教師の自己開示と非言語的情報の言語化が生徒に与える効果について (41)  
宮崎大学大学院生 羽田咲子
- 6 学校音楽を「学ぶ」と「教える」ことの諸相(2)…………… (42)  
—学校音楽カリキュラム経験研究—  
立命館大学 笹野恵理子

研究発表G (J208) 7日(日) 9:30～12:30

司会 奥忍(近大姫路大学)・岡部芳広(相模女子大学)

- G-1 保育者養成課程における学生の基礎的音楽能力について……………(43)  
—音楽リメディアル教育の必要性—  
函館短期大学 三 沢 大 樹・伊 藤 勝 志  
藤女子大学 新 海 節
- 2 保育者養成校における指導法の研究……………(44)  
—「モチベーション」をテーマとして—  
東京成徳短期大学 郡 司 敦・岡 田 雅 子・白 山 智 丈
- 3 音楽科教育実習の現況と課題(2)……………(45)  
—校種の違いから見えるもの—  
尚美学園大学 宮 本 憲 二
- 4 教員養成課程における音楽指導力向上のためのプログラム開発に関する研究……………(46)  
—実演家と大学教員の連携による教授・学習の方法に基づいて—  
北海道教育大学釧路校 中 西 紗 織
- 5 フランスのIUFMにおける音楽教育……………(47)  
—初等教員養成のためのカリキュラムと教職実践演習(APP)について—  
愛知教育大学 吉 澤 恭 子
- 6 イングランドにおける正教員資格の基準と音楽教師の専門性……………(48)  
武庫川女子大学 小 松 原 祥 子

研究発表H (A200) 7日(日) 9:30～12:30

司会 齊藤忠彦(信州大学)・山下薫子(東京藝術大学)

- H-1 カヤグムの演奏法に関する指導……………(49)  
—箏と比較したカヤグムに興味を持たせる指導教材—  
奈良教育大学附属中学校 川 合 利 幸
- 2 各中音部譜表の練習法……………(50)  
寺 崎 喬
- 3 ピアニストの演奏解釈に内在する継承された指導内容……………(51)  
—楽曲を仕上げる過程の分析を通して—  
東京藝術大学大学院生 甲 斐 万 里 子
- 4 子どもの演奏表現を豊かにする指導……………(52)  
—身体の動きに着目したピアノ指導を通して—  
千葉大学大学院生 神 谷 紫
- 5 電子楽器の活用と音色の意義について考える……………(53)  
—「鍵盤楽器の歴史推移を実際に体感することの、演奏向上への効果について—  
voix claire 音楽教室 内 藤 郁 子
- 6 「中國音楽導賞」に見る中楽団の現状……………(54)  
美作大学短期大学部 木 暮 朋 佳

研究発表 I (A301) 8日(月) 9:00～12:30

司会 三村真弓(広島大学)・安田寛(奈良教育大学)

- I-1 19世紀前期ドイツ語圏における合唱運動の興隆……………(55)  
—C.F. ツェルターの活動を中心として—  
同朋大学 関口博子
- 2 白井規矩郎の唱歌遊戯教育観(2)……………(56)  
—明治33年から45年までの著作の分析を通して—  
広島大学大学院生 堀江 遙
- 3 一宮道子の幼児音楽教育について……………(57)  
—絶対音感教育との関係から—  
日本女子大学大学院生 長尾智絵
- 4 水口廣『中等発声練習教本』の特徴……………(58)  
—東京府青山師範学校附属小学校の実践との関連から—  
白梅学園短期大学 鈴木慎一朗
- 5 昭和初期における唱歌科指導の一例……………(59)  
—坊田壽真考案の基礎学習法・教材を事例に—  
洋光幼稚園 本永りえ
- 6 サウス・ボストンのホウズ小学校で試みられたL. メーソンの唱歌教育……………(60)  
—学習成果発表会で披露された唱歌教材の分析を通して—  
鳴門教育大学 長島真人
- 7 1930年代以降の堺市における音感教育の開始とその展開……………(61)  
和歌山大学 菅 道子

研究発表 J (A302) 8日(月) 9:00～12:00

司会 村上康子(共立女子大学)・吉富功修

- J-1 ピアノ演奏者による演奏構築上の音楽要素の評価……………(62)  
ロンドン大学大学院生 森 尻 有 貴
- 2 ステージ・フライトの理論的枠組……………(63)  
—演奏不安との共通点・相違点に着目して—  
広島大学大学院生 平山裕基
- 3 映像情報が音楽聴取時の感情に与える影響……………(64)  
—音楽と映像の適合性に着目して—  
広島大学大学院生 瀬川 恵
- 4 「ぴょんこ」リズムの生成に関する実験的研究……………(65)  
—歌詞とテンポの要因に着目して—  
明治学院大学 水戸博道・和歌山大学 嶋田由美  
岡山大学 小川容子・帝塚山大学 村尾忠廣
- 5 子どもの歌におけるモーラ処理……………(66)  
—濁音・半濁音・拗音を中心として—  
東海学園大学 夏目佳子
- 6 “音を聴き合う場”がもたらす運動協調……………(67)  
—グループ・レッスンにおける児童たちの音楽的発達を記述する試み—  
駒沢女子大学 丸山 慎・ヤマハ音楽振興会 小川純一  
公立はこだて未来大学 滝山 聖士



研究発表K (A303) 8日(月) 9:00～12:30

司会 磯田三津子(埼玉大学)・小中慶子(都立野津田高等学校)

- K-1 ドイツの保育施設教育指針……………(68)  
—ブレメン州とテューリンゲン州の比較検討を中心に—  
広島大学大学院生 井下 べに
- 2 イングランドの保育施設における幼児音楽教育……………(69)  
—3-5歳児のための音楽の特質と課題—  
東北福祉大学 鈴木 敦子
- 3 小学校教師が考える「音楽をつくる活動における『創造性』」……………(70)  
—質問紙調査の結果分析(その2)—  
就実大学 古山 典子・愛知教育大学 国府 華子
- 4 「身の回りの音を聴く学習活動」の授業構造……………(71)  
—小学校低学年の事例を参照しながら—  
弘前大学 石出 和也
- 5 小学校における人との関わりを伴う遊びを取り入れた音楽活動の意義……………(72)  
東京都葛飾区立二上小学校, 東京学芸大学大学院生 赤星光 江
- 6 小学校音楽科授業における子どもの気付きを引き出すための図形譜の是非について……………(73)  
新潟大学大学院生, 新潟市立亀田東小学校 竹内 知佳  
新潟大学 森下 修次
- 7 昭和43年度改訂小学校学習指導要領(音楽)に向けた文部省の取り組み……………(74)  
—昭和33年度改訂小学校学習指導要領(音楽)への批判との関連—  
広島大学大学院 四童子 裕

研究発表L (A304) 8日(月) 9:00～12:30

司会 寺田己保子(埼玉学園大学)・宮本憲二(尚美学園大学)

- L-1 子どもの表現と日本の伝統音楽③……………(75)  
—模倣場面における拍の捉え方に着目して—  
東京芸術大学 大沼 覚子・東京芸術大学大学院生 鹿倉 由衣  
桜美林大学 木村 充子
- 2 郷土の伝統音楽に基づく教材開発に関する研究……………(76)  
神奈川県葉山町立葉山小学校 畑山 美穂子
- 3 ことばと声に着目した日本伝統音楽の指導法と教材開発研究(3)……………(77)  
—音楽科教員と実演家の連携をめざした長唄<勧進帳>の指導例—  
千葉大学 本多佐保美  
長唄三味線演奏家, 千葉大学 山田 美由紀・静岡大学 志民 一成
- 4 音楽科教育における箏指導の楽曲の提案……………(78)  
—実演家の手ほどきの調査を通じて—  
東京芸術大学 長谷川 慎
- 5 宮城道雄の童曲・歌曲にみられる伝統音楽の受容について……………(79)  
—中・高校生のための教材開発を目指して—  
東京学芸大学大学院生 山下 真由美
- 6 長唄の演奏家養成の稽古……………(80)  
—師匠達の男女での役割分担—  
東京芸術大学大学院生 鹿倉 由衣
- 7 ウジユムチンオルティン・ドーの伝承構造……………(81)  
—東ウジユムチン旗サーマイ村における調査を中心に—  
東京学芸大学大学院 策力 格尔

研究発表M (A 地下100) 8日(月) 9:00~12:00

司会 山本幸正(国立音楽大学)・塩原麻里(国立音楽大学)

- M-1 Abelesの器楽演奏評価観……………(82)  
—クラリネット用演奏評価尺度の検討を中心に—  
広島大学大学院生 酒井 勇也
- 2 Silver Burdett Making Music(2008)における聴取活動……………(83)  
—Rhythm および Melody の関連性に着目して—  
広島大学大学院生 栗木 陽子
- 3 スイスの教師用指導書LA MUSIQUE A L'ECOLE の内容分析……………(84)  
—総合的アプローチによる音楽表現学習に視点をおいて—  
鹿児島大学 今由佳里
- 4 スウェーデンの2011年改訂基礎学校音楽科kursplanにおける教育改革……………(85)  
広島大学大学院生 松本進乃助
- 5 中国の音楽教育のカリキュラム研究……………(86)  
—『音楽課程標準』(2008年8月第21次印刷)に見られる教育の方向性—  
東京学芸大学 筒石賢昭
- 6 イギリスにおけるGCSEの導入に関する研究……………(87)  
—音楽の全国規準(1985)の作成過程に着目して—  
広島大学大学院生 松下友紀

研究発表N (A100) 8日(月) 9:00~12:00

司会 荒川恵子(京都女子大学)・高橋範行(愛知県立大学)

- N-1 アンサンブル学習のためのヴァイオリン導入期教材の模索……………(88)  
—“New Tunes for String (Book 1)”の有効性—  
埼玉大学 伊藤 誠
- 2 言語特有リズム解析のオペラコーチングおよび作曲指導における応用について……………(89)  
宮城学院女子大学 上羽 広明
- 3 プログレッシヴ構造の聴音課題集における調構造と変化音に関する研究……………(90)  
—Noël GALLONの4声聴音課題集の和声分析から—  
東京女子体育大学 柳田 憲一
- 4 聴音教材における課題の難易度設定に関する研究……………(91)  
—効率的な指導と学習に向けて—  
東京工科大学 伊藤 謙一郎
- 5 「音楽における創造的思考力」と即興的創作演奏の関連……………(92)  
—ヤマハ音楽教室在籍児童を対象とした調査を通して—  
ヤマハ音楽振興会 渚 智佳・酒井 勇也・小川 純一
- 6 「内」と「外」をつなぐ柔らかな耳……………(93)  
—次世代のサウンド・エデュケーション 課題分析と実践から—  
弘前大学大学院社会人研究生, 町田市教育委員会 今井 裕子

研究発表O (J208) 8日(月) 9:00～12:00

司会 阪井恵(明星大学)・佐野靖(東京藝術大学)

- O-1 子どもと教師のコミュニケーション構築技法についての一考察……………(94)  
—音楽技法を基本として—  
東京純心女子大学 平田千秋・品川区立宮前小学校 三浦綾野
- 2 教員養成学生の教授法学習の素材としての音楽授業記録活用の可能性……………(95)  
—映像記録と逐語記録による—  
北海道教育大学 尾藤弥生
- 3 学校を対象としたアウトリーチの目的について……………(96)  
—公立文化施設への聞き取りに基づいて—  
名古屋芸術大学 梶田美香
- 4 日本の学校に通う日系ニューカマーの子どもと音楽……………(97)  
—国境を越えた移動と音楽的アイデンティティの形成—  
滋賀大学 杉江淑子
- 5 ライフストーリーアプローチによる音楽科教師の力量形成についての研究……………(98)  
—Mezirowの変容的学習理論の視点からの事例分析—  
東京都武蔵村山市立第十小学校・立教大学大学院生 田中里佳
- 6 ヨーロッパの音楽院に関する歴史的研究……………(99)  
—ドイツ及びその周辺国の事例考察を中心に—  
武蔵大学大学院 北川聖子

研究発表P (A200) 8日(月) 9:00～12:00

司会 尾崎祐司(上越教育大学)・南曜子(金城学院大学)

- P-1 聾学校での音楽授業の取り組み……………(100)  
—全国聾学校合奏コンクール金賞への道—  
山口県立下関総合支援学校 末成妙子
- 2 特別支援学校における音楽授業の研究……………(101)  
—音楽中心主義音楽療法の視点を取り入れて—  
萩市立明倫小学校 福岡友香・山口大学 高橋雅子
- 3 知的障害のある生徒の音楽づくりにおけるコミュニケーション……………(102)  
—成立条件に焦点をあてて—  
東京福祉大学 下出美智子
- 4 文化的・身体的差異を超えた音楽経験……………(103)  
—ケニアの聾の子供の「音のいらない」融通無碍なダンスを事例に—  
一橋大学大学院生 古川優貴
- 5 神経難病患者へのスピリチュアルケアに関する音楽療法の検討……………(104)  
—在宅ALS患者とその介護者のアンケートを通して—  
大阪成蹊短期大学, 国立病院機構刀根山病院 加戸敬子  
公立八鹿病院 近藤清彦
- 6 わが国の音楽療法士養成教育システムに関する研究……………(105)  
—日本音楽療法学会音楽療法士(補)受験資格認定校におけるカリキュラム比較を中心に—  
広島大学大学院生 福井可奈

## 共同企画

### 共同企画Ⅰ パネルディスカッション (A100) 7日(日) 13:30～15:00

芸術関連諸教科の統合的アプローチの検討…………… (106)  
—ドイツと台湾の例を参照しながら—

企画・司会者： 近大姫路大学 奥 忍  
情報提供者： 台湾師範大学 頼 美 鈴  
浜松学芸高等学校 宮 本 賢 二 朗  
兵庫大学短期大学部 井 上 朋 子

### 共同企画Ⅱ ラウンドテーブル (Jスタジオ) 7日(日) 13:30～15:00

大震災・原発事故と音楽…………… (107)  
—福島からの報告と問題提起—

コーディネイター・司会： 帝京平成大学 降矢美彌子  
パネリスト： 清 野 京 子  
南相馬市立八沢小学校 佐 藤 香 子  
二本松市立二本松北小学校 山 崎 純 子  
福島県立相馬農業高校飯館校 矢 森 健 一

### 共同企画Ⅲ ラウンドテーブル (J分奏室) 7日(日) 13:30～15:00

「日本語をどのように〈うたう〉か」を実践する…………… (108)  
—林光・大石哲史の提言・教え方を音楽教育に生かすために—

企画・総括： 東京学芸大学 加藤 富美子  
実践報告： 成蹊小学校 山口 梨 恵  
足立区立青井中学校 原 口 直  
宮城県白石高等学校 目 黒 恵 子

### 共同企画Ⅳ ラウンドテーブル (A100) 8日(月) 13:30～15:00

音楽と言葉をめぐる3つの冒険…………… (109)  
—音楽を聴く, 創る, 演奏する, をキーワードとして—

弘前大学 今 田 匡 彦  
広島大学 寺 内 大 輔  
宮城学院女子大学 上 羽 広 明

### 共同企画Ⅴ ラウンドテーブル (Jスタジオ) 8日(月) 13:30～15:00

岐阜県におけるふしづくりの音楽教育成立の軌跡…………… (110)

企画者・司会者： 広島大学 三 村 真 弓  
話題提供者： 吉 富 功 修  
岐阜大学 松 永 洋 介  
中 村 隆 夫  
山 崎 俊 宏

### 共同企画Ⅵ ワークショップ (J分奏室) 8日(月) 13:30～15:00

わらべうたワークショップ…………… (111)  
—ハンガリーからパヨル・マルタさんをお招きして即興性と指導法を学ぶ—

ペーチ大学イエーシュ・ジュラ教育学部元副学長 パヨル・マルタ  
コーディネイト・通訳： 帝京平成大学 降 矢 美 彌 子

共同企画Ⅶ パネルディスカッション (A100) 8日(月) 15:15～16:45

音楽教育の学習環境デザインを考える…………… (112)

—中学生バンド、幼稚園コンサート、即興演奏教育の3事例から—

企画者： 横浜国立大学 有元典文  
話題提供者： 姫島小学校 波多江一代  
イムス横浜国際看護専門学校 尾出由佳  
ピアニスト・横浜国立大学大学院研究生 大澤愛  
筑波大学大学院博士課程院生 新原将義  
東京学芸大学連合大学院博士課程院生 田中路

共同企画Ⅷ (A200) 8日(月) 15:15～16:45

音楽教育の研究・理論は実践にどこまで有用・有効か…………… (113)

—大学教員と教育現場出身の研究者グループによるコラボレーションプロジェクト—

企画・司会： 横浜国立大学 小川昌文  
発表・討論者： 奈良教育大学 安田寛  
明治学院大学 水戸博道  
東京学芸大学連合学校教育学研究科 戸谷登貴子  
東京学芸大学連合学校教育学研究科 安久津太一  
東京学芸大学大学院教育学研究科 長谷川真澄

共同企画Ⅸ パネルディスカッション (Jスタジオ) 8日(月) 15:15～16:45

人間教育としての音楽教育Ⅱ…………… (114)

—教材と指導法を考えあう—

パネリスト：

京都教育大学 藤田加代  
金沢市立野田中学校 粕谷雪子  
千葉県四街道高等学校 竜田晴美  
浜松学芸高等学校 宮本賢二郎  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 工藤傑史  
東京学芸大学 加藤富美子  
パーチ大学イエーシュ・ジュラ教育学部元副学長 パヨル・マルタ  
司会： 京都大学大学院生・日本学術振興会特別研究員 小山英恵  
企画・コーディネイター： 帝京平成大学 降矢美彌子

共同企画Ⅹ (J分奏室) 8日(月) 15:15～16:15

「じゃんけんホイホイ」の遊びと唄…………… (115)

—子どもによる伝搬と変容—

帝塚山大学 村尾忠廣  
聖心女子大学 今川恭子  
和歌山大学 嶋田由美